

直前東大大意要約・段落整序特講



問題

【1】

解答

絵画の学問的分析は自然な鑑賞を妨げると嫌う人がいるが、知性は感性の役割を損なうのではなく、むしろ美の鑑賞に貢献し得る。喜びという現象自体が検証の対象であり、絵画の好みは社会の価値観によっても決まる。〔99字〕

解説

まず、各段落の要旨と論旨の展開を見てみよう。下線部は要約上でのポイント箇所である。
第1段落

○第1文：絵画の鑑賞を楽しむ人たちは、そうした体験の豊かさと自然性を損なうのを恐れて、絵画を分析したがないことがある。《テーマの導入》

↓

○第2文：美術史家たちの作業は、芸術的な創造行為だけではなく美学的体験の根本的な喜びを無視、否定することもある、という批判がある。《美術史家たちの分析的方法への批判の声》

↓

○第3文：この批判は、料理の材料、方法や調理器具への知識が、料理の味を落とすことになるという考えに似ている。《料理による比喻》

第2段落

○第1～2文：知識は感性の喜びを否定するものではなく、むしろ、知識は美の鑑賞の喜びを促進する。《知による美へのアプローチの擁護》

↓

○第3～4文：喜びという現象は単純な問題ではなく学問的研究の対象でもある。《喜びという現象の解明への認識論的アプローチの役割》

↓

○第5～6文：喜びという現象は、歴史的にも出所を突き止められる。ある時代において、ある種類の対象のある特定の特徴が好まれる理由は、個人が属する社会において支配的な価値観によっても決定される。《喜びという現象の解明への歴史的・社会学的アプローチの役割》

↓

○第7文：それ故、感性は知性によって損なわれるという概念は、美術を思考の代用品として推し進めた、過去のある時代の悪い意味での遺産なのである。《結論部》

【構成・指針】

本文全体の「論旨の展開」は第1～2文の「絵画の学問的分析は、絵画を素朴に鑑賞する喜びを奪う」という意見に対する「筆者の反論」である。そういった意見に対して筆者は、第1段落では「この見解は、料理法に精通することは料理の味を落としてしまうという考えに似ている」と比喻による批判をまず行っている。第2段落では本格的な反論が展開され、筆者は「知識は美の鑑賞を妨げるのではなく、むしろその喜びを増すのに貢献し得る」（第

1～2文)として、美が認識される仕組みの解明には認識論的アプローチ(第3～4文)や歴史的・社会的アプローチ(第5～6文)が可能であることを語っている。第7文「それ故、感性は知性によって損なわれるという考えは、美術を思考の代用品として推し進めた、過去のある時代の悪い意味での遺産なのである」が結論である。

「絵画の学問的分析は素朴な鑑賞の喜びを奪う」という批判は正しいのだろうか。

《主題の提示》

↓

実際には、知は美の鑑賞を妨げず、むしろその喜びを増すのに貢献し得る。《主張》

↓

←喜びという現象は、認識論や個人が属する社会の価値観等の歴史・社会的要素からも解明できる。《主張の補強》

↓

それゆえ、知性は感性を損なうという考えは、過去のある時代の悪しき遺産である。

〔それゆえ、知性は感性の役割を損なうものではない〕。《結論》

全訳

絵画の鑑賞を楽しむ人たちは、自分たちのそうした体験の豊かさと自然性を損なうのを恐れて、絵画を分析しながらないことがある。実際の体験よりも理論の方に関心がある美術史家たちによってなされる研究は、芸術的な創造という極めて特殊な行為だけではなく、美学的な体験、つまり観察するという行為の根本的な喜びを無視し、実際には否定することもある、という批判がなされてきた。こうした見解は、料理の材料を知り、料理の方法を認識し、調理器具が使用されるのを目にするのは、料理の味を損なうことになるという考えにいくぶん似ている。

当然のことだが、ものを楽しむことの重要性を認めることは、喜びをかき立てる対象に関しての完全な知識を備えることを排除するものではない。それどころか、私たちに自分が鑑賞している対象に関して多くの知識があればあるほど、それはより楽しい体験になるであろう。さらに、喜びという現象は単純な問題ではない。私たちの五感がかき立てられるという現象、そして、私たちがどのようにそのことを認識し記憶するかということ自体が、検証の対象でもある。喜びという現象は、歴史的にもその出所(や原因)を突き止めることができる。なぜ私たちが、ある時代において、ある種類の対象のある特定の特徴を好むかは、単に私たちの遺伝子や特定の個性の結果によってではなく、私たちが属する社会の内部において推進されている価値観によっても決定される。それゆえ、何人も芸術的な対象への感覚的で本能的な反応の重要性を過小評価しようとはしないが、感性は知性によって損なわれるという考えは、美術を思考の代用品として推し進めた、過去のある時代からの悪しき遺産なのである。

注

ℓ. 2 ◇ spontaneity 「自然さ；自発性」

ℓ. 6 ◇ ingredient 「(料理の)材料」

◇ utensil 「調理器具」

ℓ. 7 ◇ detract from ～「～を減ずる〔損なう；落とす〕」

ℓ. 11 ◇ arousal「覚醒；喚起」

ℓ. 12 ◇ interrogation「尋問；取り調べ」

◇ locate ～「～の位置〔出所；原因〕を突き止める」

ℓ. 16 ◇ sensuous「感覚的な；感覚に訴える」

ℓ. 17 ◇ legacy「遺産；後遺症」

【2】

解答

日本では進化という考えが浸透しているが、アメリカでは成人の4割しか受け入れておらず、科学が人間に関わっていく方向性に正当な懸念が生じている日本とは違い、アメリカではその懸念は宗教上の議論となっている。〔100字〕

解説

まずは、各段落のトピックや内容を検討していくことが解答への近道であろう。

第1段落：バーで進歩と進化の違いについて論じているサラリーマンに注目し、自分も議論に入ろうとしたが日本語がうまく話せず、議論の進行についていけなかった。

第2段落：進歩と進化の違いが語られる。進歩とは物事が改善の方向へと向かうものであり文化的なものであるのに対し、進化とは目的が人知では計り知れない遺伝子レベルでの変化である。

第3段落：アメリカと日本での進化に対する一般人レベルでの意識と知識には大きな違いがある。人の進化を受け入れている大人がアメリカでは40%にすぎないのに対し、日本では78%に上る。(生命)科学上の研究は日本ではその方向性が懸念されるのに対し、アメリカでは宗教上の議論となっている。

【構成・指針】

本文のポイントは、progress と evolution の違いを論じているように見えながらも、実はその論議を通じて日本とアメリカとの科学に対する意識の違いを提示しているということにある。注意しなくてはならないのは、第2段落の進歩と進化の違いにとらわれてしまうと一挙に字数不足に陥ることである。むしろ第3段落冒頭の what was illuminating for me was that it was being discussed at all in the bar という部分に注目したい。この文は、進化と進歩の議論と第1段落の場をつなぐ役割を果たし、第3段落で述べられる筆者の主張への橋渡しとして機能している。要約には、第3段落で述べられている、以下の点を含めればよい。

日本では(バーで進歩と進化の議論が行われるほど)進化についての知識が一般化しているが、アメリカではたった40パーセントの大人しか進化を受け入れていない〔アメリカでは進化については賛否両論がある〕。

日本では科学の将来に本質的な疑問が生じているが、アメリカでは科学上の問題は宗教上の議論となっている。

第1段落の導入部分、第2段落の進化と進歩の説明については、字数に余裕があればふれてもよいが、要約に必須ではない。

私が先週、東京のおしゃれな渋谷界隈にある小さなバーでビールを飲み、刺身を食していると、その場に居合わせたサラリーマンの1人が「進化は進歩と同じことか？」という疑問を声に出して言った。私は少し考えて「いいや、違うものだ。」と言った。しかし、さらなる説明を日本語でその場で行うことができず、そのまま話は進んでいってしまった。したがって今週のコラムは、もしあのバーで私が辞書を携帯しており、2カ国語ができるアシスタントを連れていたら、していたであろう回答から始めたい。もちろん、その店の客たちが仕事帰りの1杯よりも私の講義を聴きたいというご要望があったらばの話であるが。

進歩とは、「よりよい方向へ」と変わることである。換言すれば、ある観点から見て何かが物事を改善するように変わるということである。より安価で進んだ医療をすべての人が受診できることは、大半の人が即座に同意するであろう進歩の一例である。進化との違いは非常に基本的である。つまり、進歩とは、ある目的へ向けられた文化的な変化である（医療の例で言えば、社会福祉の改善に向けてということになる）。それに対して、進化とは、いかなる目的も見えない遺伝子レベルでの変化であり、進化の結果として起こる変化は、それまでよりも複雑でない何かになり得る。

その違いを論ずることは簡単なことであるが、私にとって啓発的だったのは、それがともかくにも、バーで語られていたということであった。アメリカにおける調査では、人間が先住種から進化したということを受け入れている大人はわずかに40%である。それに対し、日本では、その数字が78%に上る。しかしアメリカとは対照的に、日本の主な政党は進化に対する反論を積極的なセールスポイントとして使うことはない。他の国におけるように、日本では、科学の動向に懸念がある。人工知能や幹細胞の研究といったものに関して当然問われるべきいくつかの疑問がある。違いはアメリカにおいては、それらの懸念は宗教的性質のものであることである。

注

- ℓ. 4 ◇ get ~ out 「～(言葉)を努力して出す〔適切に述べる〕」
- ℓ. 5 ◇ I would have given had I had a dictionary and … : had I had 以降は仮定法過去完了の if が省略されたもの。if I had had a dictionary and … と同義。
- ℓ. 6 ◇ And had the customers really wanted a lecture rather than an after-work drink! :
ここも前文の I would have given … につながる仮定法過去完了の条件節で had the customers really wanted ~ は if the customers had really wanted ~ と同義。
この customers とはもちろん、バーにいた「客」のこと。
- ℓ. 10 ◇ agree on ~ 「～で意見が一致する」
- ℓ. 16 ◇ illuminating 「啓発的な；啓蒙的な」 < illuminate ~ (～を啓蒙する)
◇ at all : 肯定文で使用されると「ともかく；とにもかくにも；何にしても」の意。
- ℓ. 21 ◇ legitimate 「正当な；合理的な；妥当な」
- ℓ. 22 ◇ stem-cell 「幹細胞」細胞分裂を経ても、同じ分化能を維持する細胞のこと。

【3】

解答

(1) d (2) a (3) g (4) e (5) h (6) b

解説

段落の最初または最後の部分が空所になっている問題である。まずは空所があるままで本文全体を読み、段落ごとのテーマを大まかにつかむ。次に、選択肢に目を通して、各段落のテーマに一致するものを見きわめる。見当をつけたら、選択肢をすべて空所部分に入れてみて全文を読み通し、自然な文脈を構成しているかどうかを確認しよう。

それでは、それぞれの段落の内容を見てみよう。

第1段落：空所は設定されていない。エネルギーを得るために石炭、石油、ガス、放射性元素を大量に使うと環境に大きな被害を与えてしまうこと、またこれらの資源は再生不可能であることがまず述べられる。続いて、その代替エネルギー源を使うには経済面と実用面で問題があることが述べられている。

第2段落：これは段落全体が空所となっているので、文章全体の論理展開（段落構成）が見えてから検討する必要がある。

第3段落：空所は設定されていない。第1文に Ocean power is found in four main forms: wave power, current power, thermal energy, and tidal power. とあり、段落全体で、海から得られる4つの力（波力、海流の力、海洋温度差によるエネルギー、潮力）のそれぞれについて説明されている。

第4段落：第1文に Wind power is successfully used in many places. とあり、風力発電について述べられていることがわかる。段落の最後の部分が空所になっているが、風力発電に関係の深い内容をもつ選択肢を探すと、aに「しかし、騒音がひどく、また景観も損なう上に、常に風が吹いている場所でしか利用できない。」とある。空所の前までは主に風力発電の長所が説明されていたが、空所（2）にaを入れると、Howeverと始まってその短所が述べられることになるので、文脈に合うと考えられる。

第5段落：Rivers provide hydropower, … と始まっており、水力発電について述べられている。第4段落と同様に、段落の最後の部分が空所になっているが、選択肢から水力発電に関係のある選択肢を探すと、gに「広大な面積の土地は冠水し、川下での水の供給が不足し、生物の種は生息地が変化したために死んでしまうのである。」とある。この記述は、直前の However, very large dams, such as the Aswan Dam, can adversely affect the local environment. というダム（水力発電）が環境に与える悪影響について述べた文に対して具体例を示すことになり、自然につながる。したがって、空所（3）には、gが入ると考えられる。

第6段落：ここでは、段落の最初の部分が空所になっている。空所の後では、solar collector, solar farm, solar concentrator, sun's heat, solar energy といった語句が使われており、全体として「太陽エネルギー」について説明されていることが読み取れる。これに関係するような内容の選択肢を探すと、eに「地球の表面に届く太陽エネルギーの量は1年間に消費されるエネルギー量の1万5千倍だと言われている。」とある。

る。」とあり、太陽エネルギーについて述べる段落の導入部分として適切である。よって、空所（４）には **e** が入ると考えられる。

第 7 段落：ここも段落の最初の部分が空所になっている。excessive use of wood as fuel（燃料として木を使いすぎることを）、Fuels such as methane and ethyl alcohol can be produced from plant matter.（メタンやエチルアルコールのような燃料は植物質から作ることができる。）と、植物質を利用した燃料について述べられている。これに関係しそうな選択肢を探すと、**h** に「バイオマスというのは、燃料に換えることのできる植物質や動物質のことである。」とあり、この段落の導入部分として適当とわかる。よって空所（５）には **h** が入ると考えられる。

第 8 段落：空所は設定されていない。geothermal energy（地熱エネルギー）について述べている。

第 9 段落：文章全体の最後の段落なので、全体をまとめる内容になると推測される。まず第 1 文に Renewable forms of energy are … とある。renewable forms of energy という語句自体はここで初めて目にするが、意味を考えると、第 3～8 段落までで説明されてきたエネルギー（海、風、川、太陽、地熱、バイオマス）を受けており、さらに言えば、第 1 段落に出ていた alternative sources of energy に当たるものである。空所の前の部分までは、再生可能エネルギーは電気に変換するのにコストが高くつくという欠点はあるものの、limitless and clean（無限に存在し、環境に害を与えることもない）という長所があると述べてある。これに続くのに適当な選択肢としては、**b** に「こういった特性は、まだ開発の余地のあるこれらの技術を発展させることによって再生可能エネルギーを利用する方法を発見するように促すのに足りるほど重要であるとみなされるかもしれない。」がある。この主語の These qualities が limitless and clean を受けると考えると、自然につながる。よって、空所（６）には **b** が入ると考えられる。

最後に、後で検討するように残しておいた第 2 段落について考えてみよう。選択肢に改めて目を通すと、それ以降の段落で説明されるトピックをまとめて示している、**d** 「そのようなエネルギー源というのは、海、風、川、太陽、地熱、バイオマスの力を利用するものである。」が、文脈から考えて自然であることがわかる。この主語の Such sources of energy が、第 1 段落の the alternative sources of energy を受けている点も確認できる。

念のため、残りの **c** と **f** も検討しておくと、**c** は「個人のとり行動が重要なのであり、地球とより一層調和して生きるという満足をもたらす。」、**f** は「発展途上国では、多くの人々が現在の生活の仕方にひそむ危険に気づいていない。」という内容であり、ともに、文脈上、第 3 段落に続くにはふさわしくないことがわかる。よって、空所（１）には **d** が入ると確認できる。

全訳

我々に必要なエネルギーを作るために、石炭や石油、ガス、そして放射性元素を大量に使うと、環境に相当な被害を与えてしまう。しかも、これらの資源は再生不可能なものである。また一方で、いくつかの代替エネルギー源を使うには、経済面や実用面での問題がある。

d その代替エネルギー源というのは、海、風、川、太陽、地熱、バイオマスの力を利用

するものである。

海の力は、主に、波力、海流の力、海洋温度差によるエネルギー、潮力という4つの形態に分けられる。波力は、波が起こす機械的な動きを電気に換える装置によって活用される。しかし、その装置は、波の持つエネルギーのわずか1～5%を電気に換えるだけであり、また、その地域の生態系を壊してしまう恐れもある。海流の力は利用するのが非常に難しい。海洋の温度差によるエネルギーは、海の表層水と深層水との間の温度差を使って、化学物質を交互に気化させたり液化させたりしてタービンを回す。これは温かい海で利用するのが最も適している。ただ、起こした電気を陸へ運ぶのがやっかいである。潮力は河口で利用するのが最もよい。商業的に成功した一例として、フランスのランスダムがある。しかし、これが利用できる適当な場所はほとんどない。

風力は多くの場所でうまく使われている。「ウィンドファーム（風力発電地帯）」は比較的成本も低く建設しやすい。カリフォルニアにある最大規模の「ウィンドファーム」は、5千の風力発電機を使って40万世帯分の電気を起こしている。中国では個々のタービンが効率的に各世帯へ電気を供給している。**a** しかし、騒音がひどく、また景観も損なう上に、常に風が吹いている場所でしか利用できない。

川は水力電気を生み出し、それは世界の電力の20%を占めている。発展途上国では、水力電気をもっと利用できる可能性がある。水力発電所を建設するためには高いコストがかかるが、電気はとても安く作られる。ノルウェーでは電気の90%をこのようにして作っている。しかし、アスワンダムのような非常に大きなダムは、その地域の環境に悪影響を与えることもある。**g** 広大な面積の土地は冠水し、川下の水の供給が不足し、生物の種は生息地が変化したために死んでしまうのである。

e 地球の表面に届く太陽エネルギーの量は1年間に消費されるエネルギー量の1万5千倍だと言われている。これは太陽熱収集器を使うことによって、ものを温めるためにそのまま利用することができる。イスラエルでは、3分の2の世帯がこのようにして家庭で湯を得ている。太陽エネルギーは光電池によって電気に換えられる。ただ、光電池は高価なものである。カリフォルニアでは「ソーラーファーム」で熱が集められ、発電のために利用されている。太陽熱集中装置は、鏡を使って太陽熱を一点に集める装置なのだが、これは料理や湯沸かしのために使うことができる。太陽エネルギーは適切に設計された建物を効率よく暖房することもできる。

h バイオマスというのは、燃料に換えることのできる植物質や動物質のことである。それは主に木という形で利用され、世界のエネルギーの約15%を供給しており、世界人口の半分はこれを主な燃料としている。しかし、木を燃料として使いすぎると、砂漠化を引き起こす可能性がある。メタンやエチルアルコールのような燃料は植物質から作ることができる。

地熱エネルギーは世界中で年間5千万メガワットの電気を生み出しているが、現在は溶岩が地表近くにある場所でしか利用できない。

再生可能エネルギーは、我々にとって最も必要なエネルギーの形態である電気に、低コストで変換するのが難しい。しかし、それらは無限に存在するもので環境に害を与えることもない。**b** こういった特性は、まだ開発の余地のあるこれらの技術を発展させることによって再生可能エネルギーを利用する方法を発見するように促すのに足りるほど、重要であると

みなされるかもしれない。

注

本文

ℓ. 2 ◇ radioactive 「放射性の」

ℓ. 3 ◇ non-renewable 「再生不可能な」 < renew ～ 「～を再生する」

選択肢 d

◇ geothermal 「地熱の」

本文

ℓ. 5 ◇ thermal 「温度の」

ℓ. 9 ◇ harness ～ 「～（自然の力）を（動力源に）利用する」

ℓ. 10 ◇ liquefy ～ 「～を液化する」 cf. liquid （液体；液体の）

ℓ. 12 ◇ barrage 「ダム」

ℓ. 31 ◇ desertification 「砂漠化」

◇ methane 「メタン」

◇ ethyl alcohol 「エチルアルコール」

選択肢 b

◇ sufficiently ～ to … 「…するのに足りるほど～」



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--